

国立成育医療研究センター
女性の健康総合センター
Integrated Center for Women's Health



女性は、ライフステージごとに心身の状態や社会的な立場が大きく変化し、さまざまな健康上の問題などが生じます。

女性の健康総合センター（ICWH）は、女性の健康や疾患について、心身における性差を踏まえて、ライフステージごとに多面的・包括的な分析を加え、病態の解明と予防および治療に向けた研究開発・診療を推進する拠点です。

ICWHのロゴは、生命の象徴である「花」をモチーフとしています。4枚の花びらでWomanの「W」を形成し、ランダムに配置することで一人一人の個性と生命力を表現。それを支える枝は、そっと包み込む「手」をイメージしたフォルムです。

花のコーラルピンクは、愛情や優しさ、人とのつながりを意味し、枝のグリーンは、健康や安心、包容力を象徴しています。

このロゴとともに、ICWHはすべての女性の健康を支える未来へ向けて歩み続けます。

ごあいさつ

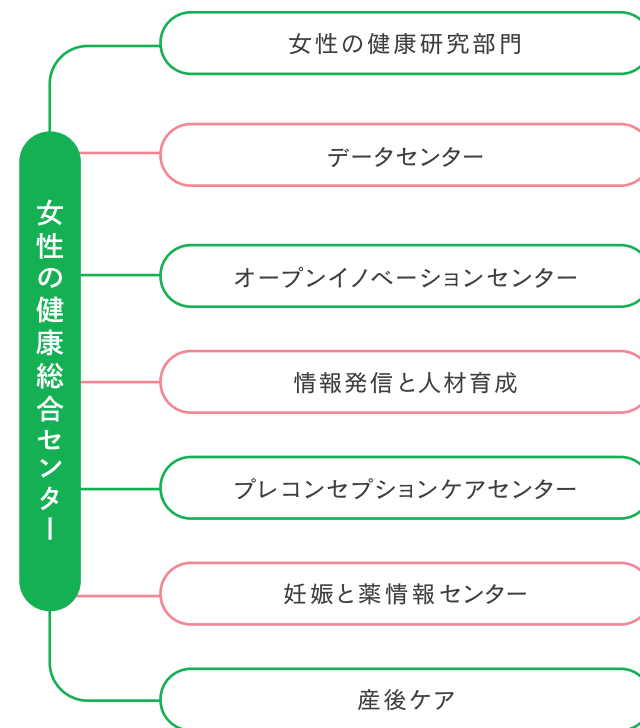
女性の健康総合センターは、女性の健康に関する研究開発から医療への展開までを包括的に推進する、日本で初めての専門拠点です。思春期、性成熟期、更年期、老年期といったライフステージごとに大きく変化する女性の身体とこころの特性に着目し、科学的根拠に基づく「ライフコースアプローチ」の実現を目指しています。

これまでの医療や研究は、男女の違いを十分に考慮せずに進められてきた側面がありました。しかし、すべての細胞には性差が存在し、性ホルモンは全身の機能に影響を及ぼします。さらに、社会的・文化的背景も健康に深く関与しています。こうした「性差」の視点を取り入れることは、より適切な診断・治療・予防法の確立につながり、ひいてはすべての人の健康の向上に寄与すると考えています。

当センターでは、日本独自の課題意識を大切に、国際的にも発信可能なエビデンスの創出を目指します。

女性が生涯にわたり、健やかに、自分らしく生きることができる社会の実現に向け、今後も全力で取り組んでまいります。皆さまのご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。

女性の健康総合センター センター長
小宮 ひろみ



女性の健康政策研究部

女性の健康政策研究部は、女性が身体的・心理的・社会的により健康であり続けることができる社会の在り方を科学的根拠に基づいて提案する研究部門です。各ライフステージにおける健康課題の可視化やそれぞれの健康課題が将来の健康に及ぼす影響の把握、要因分析や解決策の提案、そしてその介入の効果検証を遂行します。こうした研究成果を社会へ還元することで、すべての女性が生涯を通じて自分らしく、健やかに輝ける未来の実現を目指します。

● 女性の健康推進研究室

政策の立案・評価に資する学術研究を行い、エビデンスに基づく政策づくりのために関係省庁と連携します。また、国内外の女性の健康に関連する政策情報の把握とその利活用体制の構築・推進を行います。

● 女性のライフコース疫学研究室

女性の健康や性差に関するさまざまな課題を、ライフコースの視点から明らかにすることを目的としています。思春期や若年期といった、心身や社会的環境が大きく変化する移行期にも着目し、医学だけでなく社会学など多様な分野の知見を取り入れ、課題解決を目指します。

● ヘルスインフォマティクス研究室

従来の疫学研究に加え、バイオインフォマティクスやデジタルヘルスを用いた多角的なデータ解析により、最適な医療につながるエビデンスを創出します。行動科学やデジタルデバイスを活用し、効果的な情報発信と介入方法の確立を目指します。



女性の健康医学研究部

女性の健康医学研究部は、分子生物学や内分泌学、免疫学などの基礎医学の知見を生かし、女性の年代やライフステージによって現れるさまざまな健康課題の理解を深める研究部門です。研究を通じて、病気や不調の背景にある仕組みを明らかにし、その成果を将来の診療や予防につなげることを目指しています。

● 女性免疫バイオメディカル研究室

母児に影響する妊娠合併症や胎内環境変化のメカニズム解明に挑んでいます。生体試料解析や細胞生物学的手法を用いて、母児の予後改善や女性の生涯にわたる健康増進への貢献を目指します。

● 女性内分泌学研究室

女性の健康を内分泌環境から研究し、ライフステージごとの課題解明と医療モデル構築を目指します。細胞や組織の働きを解析し、ホルモンと遺伝子の関わりを明らかにすることで、女性特有の疾患の予防・治療法を探求し、女性医学の発展に貢献します。

● 女性の生殖医学研究室

子宮性不妊症に対する革新的な治療法として、月経血由来細胞を活用した子宮内膜再生医療の実用化に取り組んでいます。科学的根拠に基づく再生医療の確立と、その社会実装に向けた橋渡しを担っています。

● 女性のライフストレス制御研究室

女性のライフコースに起因する健康問題の解決を志向した基礎研究を推進します。婦人科良性疾病を対象としたマルチオミクス研究により、それらの疾患の発症機構を明らかにすることを目指します。

● 先端医用工学室

準備中

データセンター

データセンターでは、さまざまな分野のデータソースから多様なデータを集積し、それらのデータを複合的に組み合わせることで活用できるプラットフォームを提供していきます。

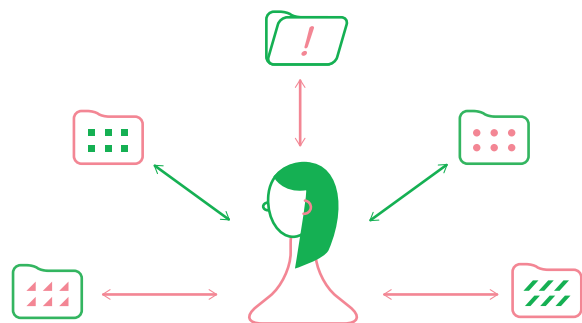
幼少期、思春期、性成熟期、更年期、老年期といった女性のライフステージごとのさまざまなデータの収集・格納・精製を行い、専門的な知識やスキルを持ったメンバーが、集積されたデータを分かりやすく整理・可視化し、データの利活用を推進していきます。

2025年度は、データによる疾患別の性差可視化[※]や、ICWH内外のステークホルダーに対するデータ整備・集計・解析・可視化などの業務支援、データガバナンスに関するリテラシー教育コンテンツの開発などに取り組みました。

“データの集積”と“データの利活用”の基盤を強化することにより、女性の健康に関する新たな知見の創出や洞察の深化を促し、より健やかな社会の構築に資する研究に貢献することを目指しています。



※2025 プレスリリース



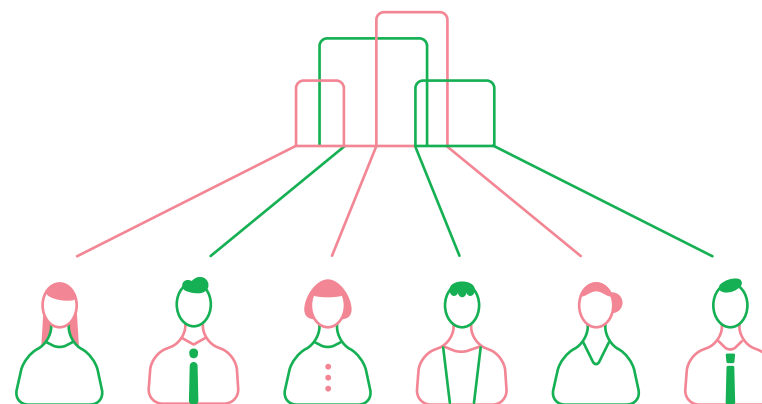
オープンイノベーションセンター (OIC)

オープンイノベーションとは、研究機関や企業、自治体、さらには市民など、さまざまな立場の人や組織が連携し、それぞれの知識や技術、経験を持ち寄ることで、新しい価値や解決策を生み出す考え方です。

OIC準備室は、この考え方を女性の健康分野に応用し、研究と社会をつなぐ「ハブ」としての役割を担っています。2024年の開設以降、医療・製薬・IT・保険・小売など多様な業種の企業、アカデミア、自治体など100を超える組織と面談を行い、女性の健康課題に関するニーズや課題の整理を進めてきました。

また、国内外のイベントでのICWHやOICの紹介を通して、海外を含む多様なパートナーとの交流も広がっています。

今後も産・官・学・民が協力する仕組みづくりを通して、女性の健康課題の予防や治療、より良い社会の実現につながる研究とイノベーションを後押ししていきます。

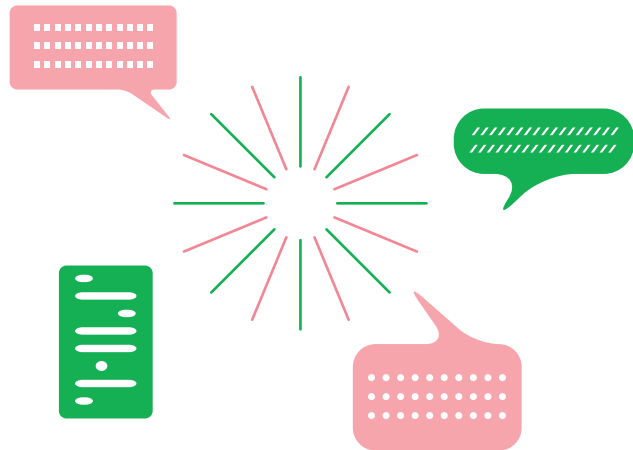


情報発信と人材育成

女性の健康総合センターや、女性の健康に関連する外部の施設などで創出されたエビデンスや新たな知見を、さまざまな形で広く発信していきます。「成育Women's Health セミナー」および「成育Women's Health アドバンスセミナー」を開催し、ライフステージに応じた女性の健康課題や最新のエビデンスについて、一般の方や多職種を対象に体系的な情報発信を行っています。

あわせて、女性の健康に関する知見を広く社会へ届けるため、ウェブサイト「女性の健康推進室 ヘルスケアラボ」における記事の監修や、分かりやすい表現への校正・修正を実施。またSNSを通じた継続的な情報発信にも取り組んでいます。

人材育成では、女性の健康に関わる専門家の育成を目的に、自治体の相談事業の現状を踏まえ、標準化された教育プログラムや教材の開発を進めています。



プレコンセプションケアセンター

プレコンセプションケアは若い男女が将来のライフプランを考えながら、日々の生活や健康と向き合うことです。それは、いまの自分や将来の自分の健康につながるだけでなく、次世代を担う子どもたちの健康にもつながります。

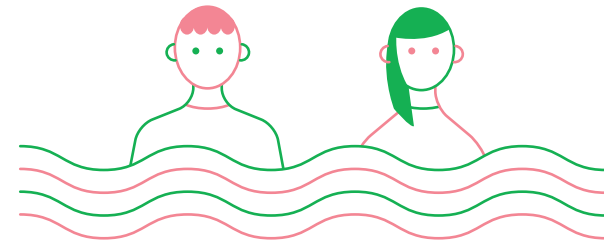
将来の妊娠・出産・子どもを持つことを希望しない方でも、性や妊娠・出産について正しい知識を持つておくことは大切です。プレコンセプションケアは、人生100年時代の満ち足りた自分 (well-being) の実現につながるヘルスケアとして注目されています。

2025年度の活動

- 1 従来のプレコン相談・チェックプラン(健診とカウンセリング)に加え、持病のある方向けのサポートプランを開始しました。
- 2 自治体と連携し、「TOKYOプレコンゼミ」の講師を担当しています。また、登録医療機関としてプレコンセプションケアの普及に取り組んでいます。
- 3 10周年記念セミナー(ICWH1周年記念セミナーと合同開催)を開催し、米国ノースカロライナ大学のVerbiest教授をお招きして各国のプレコンセプションケアの取り組みについて意見交換を行いました。



「プレコンセプションケアセンター」Webサイト



妊娠と薬情報センター

妊娠と薬情報センターは、お薬について不安を感じている女性に寄り添う、全国ネットワークの「中心」となる組織です。

当センターが申し込みを受け付け、必要なお薬の最新情報を提供することで、全国47都道府県の専門外来で安心して相談できる体制を整えています。

私たちの活動は、調査に協力してくださる相談者の声や専門的な研究に支えられ、2025年度は国内外で13の論文を発表するなど、知見を積み重ねてきました。

当センター主導の調査・研究により科学的根拠が認められ、2025年度には、吐き気止め「ドンペリドン」の妊婦禁忌が解除されました。これにより、妊娠に気づかずに服用した方が不安なく妊娠を継続できるようになりました。

これからも、さまざまな活動を通して未来の妊婦さんが安心して出産を迎えられる社会を目指していきます。



「妊娠と薬情報センター」Webサイト

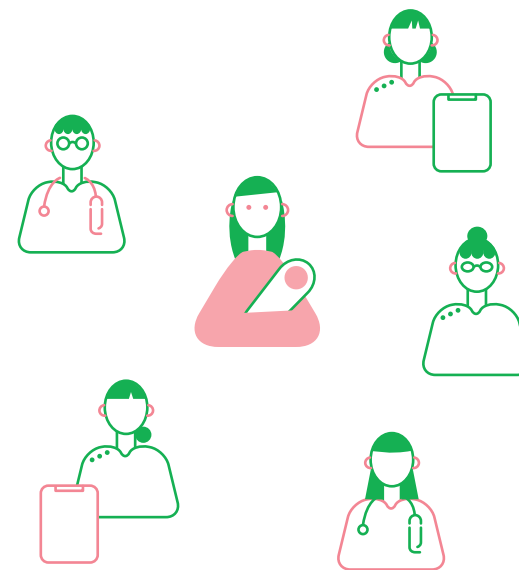


産後ケア

女性の健康総合センターに新しく設置される「産後ケアセンター」では、ショートステイ(宿泊型)とデイケア(通所型)の双方で、産後ケアを提供していく予定です。

妊娠・出産に関するあらゆる医療に取り組んできた当センターだからこそ、医師、看護師、助産師、保育士、心理士、ソーシャルワーカーなどさまざまな医療従事者が、健やかに子育てを始め、続けられるようにサポートしていきます。

また、全国で行われている産後ケアの情報を集めて共有し、新しいサービスを提案するなど、産後ケア事業の司令塔としての役割を担うことも目標にしています。



診療のご案内

女性総合診療センターは、以下の診療科がございます。
詳細については、Webサイトをご覧ください。

診療科

女性内科

女性外科（準備中）/ 婦人科

不妊診療科

女性歯科

女性精神科



女性総合診療センター Webサイト

女性総合診療センター全般に関するお問い合わせ
女性の健康総合センター事務室：josei_kenko@ncchd.go.jp